

群 教 セ	G15 - 01
	令3.277集
	高-キャリア

令和3年度長期社会体験研修報告書

研修先：株式会社クライム

長期社会体験研修員 木暮 臣祥

I 研修内容

1 研修先の概要

株式会社クライムは、1989年4月に有限会社クライムとして設立された。1995年8月に株式会社クライム（以下、クライム）に組織変更し、2013年2月に本社を高崎市へ移転した。東京・大阪・上海にも事業所を展開し、従業員の幸福を最大の目的とした企業理念を掲げ、ICTを通して人々の生活と社会を便利にし、世界中の全ての人を幸福にすることを使命としている。

主な事業内容は、「システム開発事業」「インフラ事業」「プロダクト事業」の三つである。設計、構築及び運用・保守の各工程を手掛け、高度な技術により最適なシステムを提供している。金融・通信・公共分野など様々な業種におけるシステムサービスを提供する企業である。

2 研修先での主な研修内容

(1) 新入社員研修【4月～6月】（研修場所：在宅）

4月1日の群馬事業所での入社式後、新入社員研修で使用する教材やソフトのインストールなど、貸与品のパソコンの環境構築を行った。その後、3か月間は新入社員と共にオンライン研修（基本は在宅）を受けた。Web会議システムを使用して、システムエンジニア（以下、SE）として必要なITの基礎知識や、各種プログラミング言語の技術を、座学及び実習形式で研修した。毎日の確認試験では、知識や技術の習得状況を確認することができた。新入社員研修の最終日にはチームで開発したWebアプリケーション（ECサイト：電子商取引）について成果報告会を行った。

(2) 配属事業所での研修【7月～3月】（研修場所：群馬事業所）

営業（ヒアリング・提案）、要件定義、各種設計、製造、テスト、納品、保守の手順で進められるシステム開発の一連の業務に携わった。具体的には製造業向け生産管理・原価管理、会社統合による会計連携、弁当注文に関するプロジェクトに参加した。営業、要件定義の業務として、提案書の作成や、Web会議への出席、顧客とのヒアリング、議事録の作成、顧客先への現地訪問に同行した。ヒアリングでは、事前に資料を読み込んで疑問点をまとめて推測することや、認識にずれがないように確認することを意識して業務に取り組んだ。設計、製造の業務として、システム全体の概要図設計、画面レイアウトを経て、ユーザー用の弁当注文システムのプログラムの構築を行った。画面レイアウトでは、ユーザーが使いやすく見やすいように工夫した。プログラムの構築を通して、新入社員研修で習得した知識や技術を実践する機会となった。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育資料について

テーマを「IT企業から働くことを学ぶ～進路実現に向けて～」とし、情報関連企業に将来就職を考えている生徒への後押しとなるキャリア教育リーフレットを作成した。企業研修で体験したことや社員の方々へのアンケートを基に内容を構成し、「IT企業が必要とする資質・能力」と「学校で身に付けられる資質・能力」の結び付きが分かるようにした。また、進路実現に向けて、これから取り組めることとして、実践協力校（以下、協力校）の進路目標を使い、学年ごとの目標を段階的に示すことで、目標設定を具体的に立てやすいように工夫した。次に、社員の方々へのインタビュー内容を掲載し、実際に社会で活躍している人を知ることで、働くことの具体的なイメージをもたせるような構成にした。

(2) 実践の概要（県立高崎商業高等学校）

授業実践

題材名 IT企業から学ぶ『勤労観』～進路選択へのステップ～」（特別活動）

対象 情報ビジネス科 第2学年5組 40名

「働くことの意義」を理解し、キャリアプランを立て、さらに具体的な目標設定をさせる一連の流れにより、「キャリアプランニング能力」の向上を目指した。授業の途中、クライムの若手社員2名とオンラインで接続し、実際の仕事について話をしてもらった。キャリアプランを考える際には、共通のプランを全員が作成した後、自らのキャリアプランを考えさせた。授業の導入と振り返りで「働くことの意義」について考えさせることで生徒の変容が見取れるように工夫をした。

II 研修成果

1 新入社員教育について

新入社員の育成をねらいとした外部委託の研修を受けることができ、毎日の課題が大変であったが、大変貴重な経験になった。この3か月は、知識などに差がある新入社員にとって、ITに関する基礎知識や技術を習得する期間となっている。ここで学んだことが社員の成長や、企業全体の経営、利益にも結び付いていると感じた。基礎知識やプログラミング技術の習得だけでなく、社員同士でスピーチやフィードバック、グループワークをすることや、日報の作成などを通して、社会人として必要なコミュニケーション能力、表現力、文章構成力など、ビジネススキルを高めることができた。

2 群馬事業所での研修について

一社員としてシステム開発に携わる中で、ITに関する知識やプログラミングの技術などの大切さはもちろん、顧客や開発メンバーとのコミュニケーションがとても重要だと感じた。それは、学校現場でも同様であり、教員と生徒、教員と保護者、教員同士などでコミュニケーションを密に取り、情報共有や協働することで、よりよい関係性を築いていくことができると感じた。研修全体を通して、組織の一員である社会人としての意識を向上することができた。また、プログラミングの技術を身に付けることやシステムエンジニアの業務を経験することによって、商業科の教員としての専門性を高めることができた。

3 キャリア教育実践について

授業実践では、協力校の現状を踏まえ、早い時期から進路に向き合わせるため、キャリアプランを立てさせた。生徒のみで考えるだけではなく、年齢の近い若い社員とオンラインで対話することで、働くことを身近に感じさせることができた。また、キャリアプラン作成を2段階のステップで考えさせることで、自身の進路と向き合わせることができた。アプローチの仕方やキャリアプランの流れを丁寧に実践することで、生徒は進路に対して主体的に取り組めると実感した。

III まとめ

本研修を通して、プロジェクトによる開発やプログラミング、情報モラルなどの教科指導だけでなく、実体験として感じた社会人としての心構えや、進路指導で生かすための経験を積むことができた。また、新入社員と一緒に研修を受けることや、社員と協力して働くことにより、生徒が高校生活で身に付けるべき資質・能力について、認識を新たにすることができた。さらに、コミュニケーション、情報セキュリティ、情報共有、会議形態による業務の効率化など、学校と企業との違いなども肌で感じる事ができた。研修で得た知識や技術を学校組織の活性化に努めていくために、現状に満足せず進歩し続ける姿勢が必要だと感じた。

（担当指導主事 高橋 邦明）